

栃木県保険医協会

新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する緊急アンケート結果報告

【調査の目的】

新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあるなか、県民にも外出や受診を控えるといった行動変容も見られ、医療機関への影響を明らかにするため調査を実施した。

【調査対象者】

栃木県保険医協会に所属する医師・歯科医師の会員医療機関宛754名(医科425名、歯科329名)にFAXと郵送にて調査用紙を配布した。

【実施期間】

2020年7月7日(火)～2020年7月15日(水)に届いた回答から調査した。

【回答数】

回答数は全体で177件。回収率は23.4%であった。

※()内は件数

	回収率
医科	28.0%(119)
歯科	17.6%(58)

【調査結果】

1. 基本事項

①年齢

※()内は件数

	医科	歯科
20代～30代	0.8%(1)	8.6%(5)
40代	10.1%(12)	20.7%(12)
50代	24.4%(29)	31.0%(18)
60代	42.9%(51)	27.6%(16)
70代～	19.3%(23)	12.1%(7)
NA	2.5%(3)	0%(0)
合計	119	58

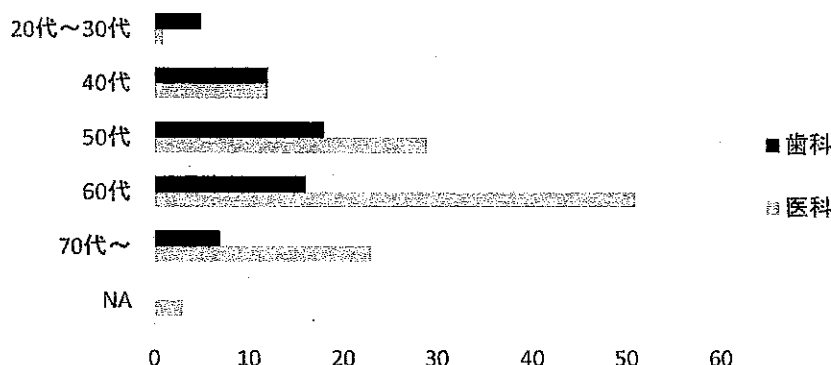


図1 年齢



②医療機関形態

※()内は件数	
医科	119
(診療所)	115(96.6%)
(病院)	4(3.4%)
歯科	58
合計	177

③主な標榜科(医科)

※()内は件数	
内科	63.0%(75)
精神科	3.4%(4)
小児科	7.6%(9)
外科	3.4%(4)
整形外科	9.2%(11)
皮膚科	1.7%(2)
泌尿器科	2.5%(3)
眼科	2.5%(3)
耳鼻咽喉科	4.2%(5)
産婦人科	0.8%(1)
その他	1.7%(2)
合計	119

2. 診療状況(今年5月と前年5月との比較)

①外来患者数

※()内は件数		
	医科	歯科
減った	86.6%(103)	91.4%(53)
変化なし	5.0%(6)	5.2%(3)
増えた	3.4%(4)	3.4%(2)
NA	5.0%(6)	0%(0)
合計	119	58

減少の程度

※()内は件数		
	医科	歯科
1割減	12.6%(13)	5.7%(3)
2割減	30.1%(31)	32.1%(17)
3割減	36.9%(38)	45.3%(24)
5割減	13.6%(14)	13.2%(7)
7割減	1.0%(1)	0%(0)
7割以上減	1.0%(1)	0%(0)
NA	4.9%(5)	3.8%(2)
合計	103	53

グラフは次頁



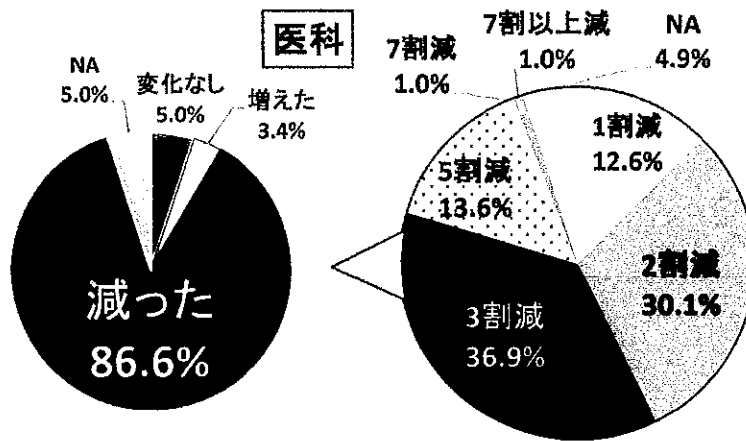


図2 5月の外来患者数（医科）

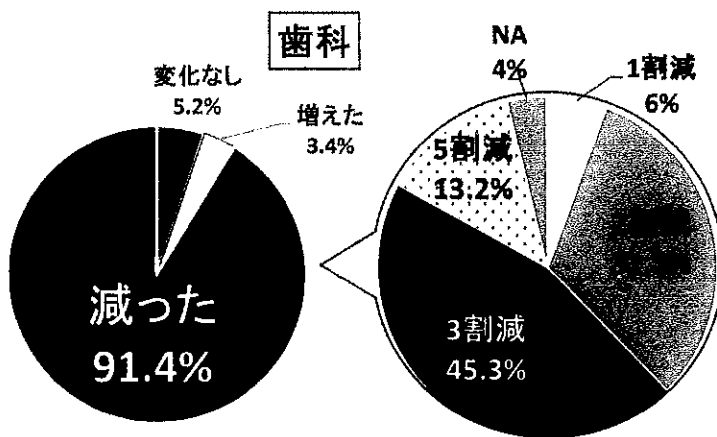


図3 5月の外来患者数（歯科）

②保険診療収入

※()内は件数

	医科	歯科
減った	83.2%(99)	86.2%(50)
変化なし	5.9%(7)	6.9%(4)
増えた	4.2%(5)	6.9%(4)
NA	6.7%(8)	0%(0)
合計	119	58

減少の程度

※()内は件数

	医科	歯科
1割減	15.2%(15)	12.0%(6)
2割減	29.3%(29)	30.0%(15)
3割減	30.3%(30)	38.0%(19)
5割減	16.2%(16)	20.0%(10)
7割減	2.0%(2)	0%(0)
7割以上減	0%(0)	0%(0)
NA	7.1%(7)	0%(0)
合計	99	50

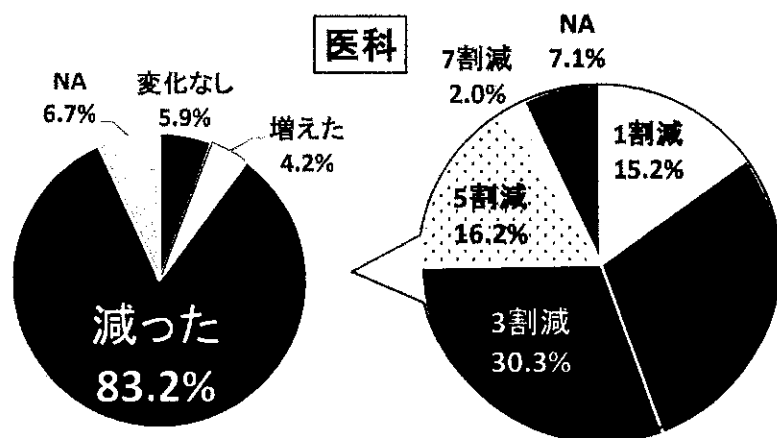


図4 5月の保険診療収入（医科）

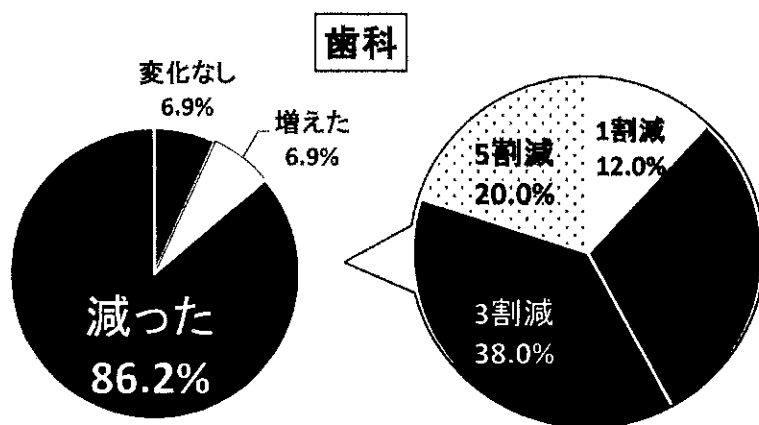


図5 5月の保険診療収入（歯科）



③患者減、保険診療収入減に対し、医療機関として何か対策をされていることがありましたら
ご記入ください。 ⇒別掲

④患者が受診を控えたことで重症化した事例や、お気づきの点、お困りの点がありましたら
ご記入ください。 ⇒別掲

3. 国・自治体等の助成金について

下記の各制度について、ご自身に当てはまる欄ひとつに○印を付けてください。

①雇用調整助成金

※()内は件数

	医科	歯科
活用中/申請中	3.4%(4)	19.0%(11)
検討中	11.8%(14)	17.2%(10)
使わない	53.8%(64)	36.2%(21)
制度をよく知らない	8.4%(10)	13.8%(8)
その他	1.7%(2)	0%(0)
NA	21.0%(25)	13.8%(8)
合計	119	58

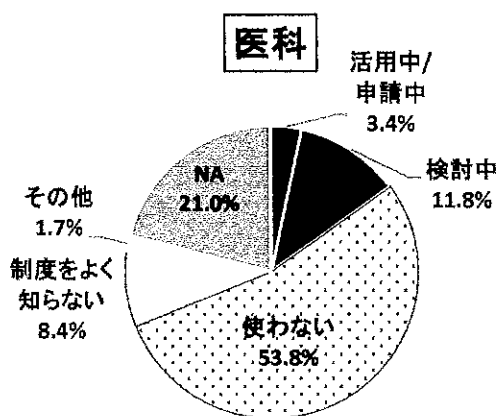


図6 雇用調整助成金（医科）

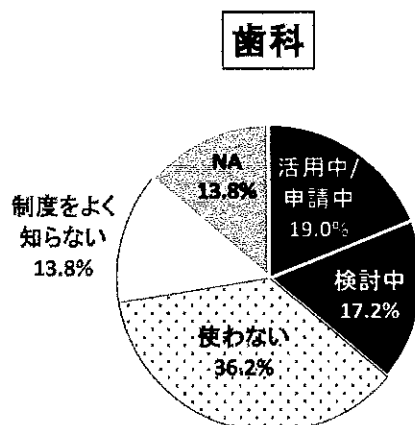


図7 雇用調整助成金（歯科）

②持続化給付金

※()内は件数

	医科	歯科
活用中/申請中	4.2%(5)	5.2%(3)
検討中	5.9%(7)	25.9%(15)
使わない	53.8%(64)	39.7%(23)
制度をよく知らない	8.4%(10)	15.5%(9)
その他	3.4%(4)	1.7%(1)
NA	24.4%(29)	12.1%(7)
合計	119	58

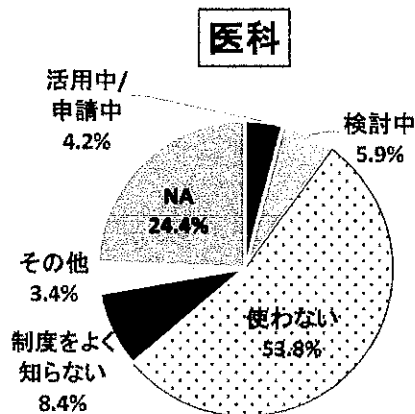


図8 持続化給付金 (医科)

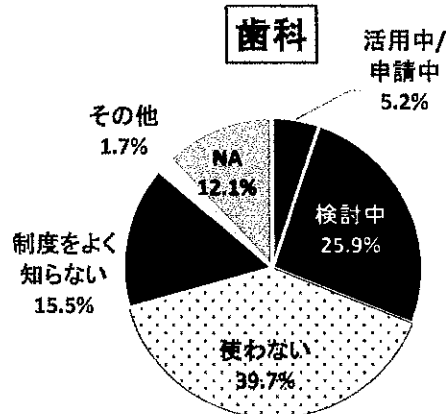


図9 持続化給付金 (歯科)

③政策金融公庫、福祉医療機構など公的機関・民間機関の融資制度

※()内は件数

	医科	歯科
活用中/申請中	9.2%(11)	19.0%(11)
検討中	10.9%(13)	24.1%(14)
使わない	47.9%(57)	32.8%(19)
制度をよく知らない	10.1%(12)	12.1%(7)
その他	2.5%(3)	0%(0)
NA	19.3%(23)	12.1%(7)
合計	119	58

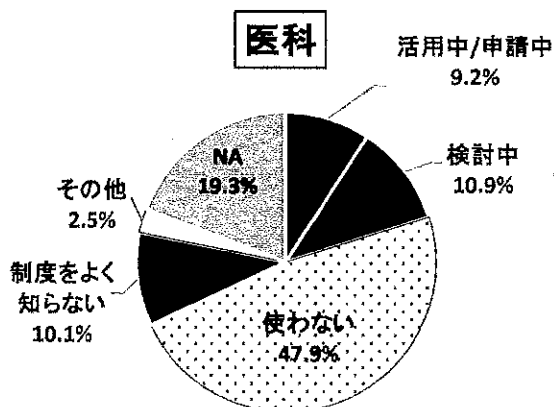


図10 公的・民間機関の融資制度 (医科)

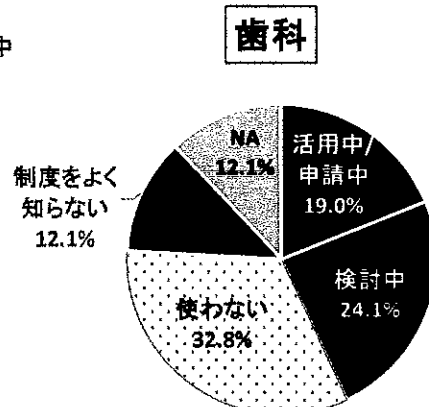


図11 公的・民間機関の融資制度 (歯科)

4. 新型コロナウイルス感染症の拡大に際して、電話や情報通信機器を用いた診療が時限的・特例的に認められています。オンライン診療についてお伺いします。(医科のみ)

①オンライン診療の実施

※()内は件数

行っている	26.9%(32)
行っていない	54.6%(65)
検討中	16.0%(19)
NA	2.5%(3)
合計	119

②診療の取り扱い(オンライン診療を行っているのみ)

※()内は件数

再診のみ	84.4%(27)
初診・再診	15.6%(5)
その他	0%(0)
合計	32

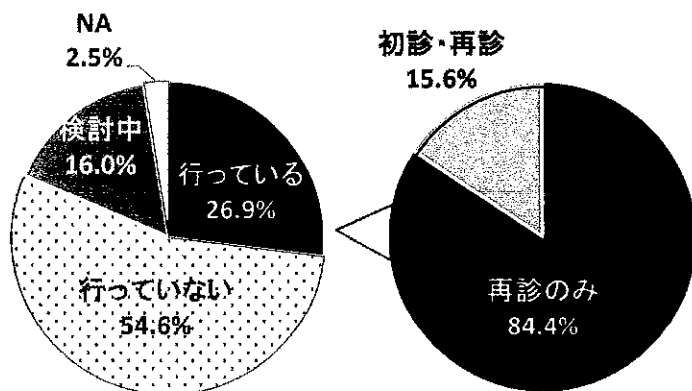


図12 オンライン診療の実施

2-③患者減、保険診療収入減に対し、医療機関として何か対策をされていることがありましたらご記入ください。【一部抜粋】

- 受診者に対して感染対策実施していることを伝えている他、目に見える対策も行っている（内科）
- 5月は、4月の時に受診しなくて良い様に意図して処方日数を延ばした。感染が予想より拡大しなかったため、6月以降は元に戻している（内科）
- 予防接種の施行を控えたりはできない為、外来や待合室の人数制限、時間調整を工夫した（内科）
- 支出の縮小、留保金の取り崩し、院長の私産投入、助成金の支給、融資等により、6月分までの従業員給与、賞与は確保した（内科）
- 予約制の人数制限を行い、密にならないと患者に伝え、屋外で検温と手の消毒を行い、安全に通院してもらえるようにした（眼科）
- ポストコロナに向け、診療の仕組み（休診日や診療時間、スタッフの配置等）の見直しを検討。賞与のカット、研修、出張、書籍購入などの費用カット（整形外科）
- プレハブを設置し、発熱者の診察を受け入れた（内科）
- 学校健診の延期により、子供に対して、春の歯科検診の受診を促す案内を出した（歯科）
- 不要不急の治療を自粛の影響で訪問診療が減ったので、その分外来の日数を増やした（歯科）
- パートのスタッフの出勤時間を減らした（歯科）
- 感染症対策をきちんとしていることをアピールするようにしている（歯科）
- 今まで軽症と考えていた患者さんの主訴をもう一度聞き取り、じっくり治療をしてゆく（歯科）
- 予約アプリの連絡機能を使用した歯科院内の情報提供により、Ktへの安心感と受診動機を促している。感染予防対策を徹底し、それにより行きたい歯科医院作り、行くべき歯科医院作りを徹底している（歯科）

2-④患者が受診を控えたことで重症化した事例や、お気づきの点、お困りの点がありましたらご記入ください。【一部抜粋】

- リハビリテーションは機械に触れたり、マッサージ師が体に触れることを嫌がる傾向有り。病院はコロナで危ないとの認識がある（整形外科）
- 高血圧や糖尿病のコントロールが不良となった症例はある。内服薬が終わる前に受診するように心がけてほしい（処方のみでも致し方ないと思う）（内科）
- 小・中学生の運動再開時の筋・腱損傷が目立つ（整形外科）
- 在宅治療の患者で自宅に来ないで欲しいとの声があり、処方ができず困るケースがあった。施設が家族との面会だけでなく、外部サービスの利用を制限するといった対応も見られた（内科）
- 皮フ症状や糖尿病の増悪例。患者が放置したことによる膀胱ガンの発症・発見の遅れ（泌尿器科）
- 認知症の患者が増えた印象（精神科）
- 妊婦や褥婦の発熱の症例を診ることが困難なため、まず内科に受診してもらうようにしている。乳腺炎などの症例の見きわめが難しい（産婦人科）
- 矯正治療中の患者が受診を控えたことで、治療が進まなくて困った（歯科）



○メンテナンスの患者の受診抑制により症状悪化等があり、急性症状の悪化で手遅れになっている症例等（歯科）

○カリエスが進んでいたり、落ち着いていた歯周病が進んでいたり、結果通院回数が増え、患者の感じる不具合症状も増しているのではないかと感じた（歯科）

○歯肉炎の発症（発病）が増加した。痛み限界まで我慢している患者もいた（歯科）

5. 新型コロナウイルス感染症に伴う診療対応や感染防止対策▽医院経営、スタッフの雇用▽医療機関・従事者への偏見・風評被害—などでの不安やお困りごと、その他行政への要請、保険医協会・保団連へのご要望等がありましたらご記入ください。【一部抜粋】

○とにかく減収著しく、このままではスタッフの雇い止めもありうる。貸付ではなく、補助金でどうにかしてもらいたい（スタッフの給与を補助するとか）（小児科）

○オンライン診療は減収に繋がるうえ、患者の症状を直接診ることができないなど良くない診療方法と考える（内科）

○スタッフさんには危険手当で給与を増やし、モチベーションが低下しないように配慮している。そうでなければ秋以降の第2波に丸となって戦ってもらえないので頑張るしかない。今年は赤字で良い。数年かかって戻れば良いと思っている（内科）

○秋以降、コロナとインフルエンザ流行の混在が懸念されるが、国や県の対応や方針を早めに知りたい（小児科）

○防護具（ガウン、手袋、エプロン、フェイスシールド）等の配布希望（内科）

○待合室の人数を減らすため車内での待機を依頼するも、協力が得られないこともあり、それに対して対策をしていないなどクレームを言われることがあり対応に困る（精神科）

○雇用調整助成金は秋以降も継続されることを希望する（耳鼻咽喉科）

○特定の医療従事者に給付金を出すのではなく、診療所経営が成り立つような助成金を出して欲しい（内科）

○患者さんの受診抑制の為におこる収入減が一番の不安（耳鼻咽喉科）

○自院のクラスター化の心配及びその後の風評被害などの心配。発熱の方も特別診療室で診療している（内科）

○診療所が最先端でコロナ感染の危険にさらされている。かかりつけ患者が発熱した場合、診療を拒むことができず、現在では自前で調達した防護具類を着用しているが、アルコールも防護具も十分でない。これからの季節、インフルエンザの流行とコロナを考えると、どのように対処すべきか分からない（内科）

○必要な医療は何なのか、考えさせられた。PCR検査、抗体検査、自費での対応を検討中（内科）

○PCR検査がもっとできるようにしてほしい。困難とは思うが、ワクチンの早期開発を望む（内科）

○当初はマスク、手指消毒アルコールが足りず、困った。介護施設、保育園、医療機関等、今後スタッフ全員の定期的なPCR検査が不可欠と考えられる（精神科）



- スタッフの雇用は変えず、言及せず、賞与も例年通りとしたが、このままの状態が続けばすべて従来通りとはいかなくなる可能性あり、心配である。事業の縮小又は廃業も視野に入れている（内科）
- 必要以上に恐れることは歯周病悪化で取り返しのつかぬことが有ることを国民にアピールしてもらいたい（歯科）
- サッカー・野球選手と同じく無症状の人を含めて全員、医療関係者はPCR検査をできる様にして欲しい。安心して治療がしたい（歯科）
- 歯科での緊急性のある治療以外控えなさいという風評が困る。口腔ケアをしないと肺炎リスクが高まるなど、不利益が多いことをしっかり伝えるべき。訪問歯科など今まで行っていたことも施設から断られることも多い。歯科ではやらなくてもいいという治療はない（歯科）
- この仕事はとても怖い。家族やスタッフ、患者が発症しないようにいろいろやっているが、とても怖い。PCR検査が必要なのではないか。そしてワクチンの早期開発（歯科）
- 自分やスタッフに風邪の症状が出た時に、コロナ感染がどうか分からないので、どの程度出勤を控えたらいいか分からない。医療従事者は症状が軽くてもPCR検査を受けられるようにしてほしい。今のところ、内科でPCR検査を申し出ても断られている（歯科）
- また冬にマスクなどが品薄にならないか心配（歯科）
- 感染の終息に力を入れてほしい。そのためには多少の我慢は致します。（歯科）
- （売上50%以上減少の給付に対して）30%程度でも厳しい。持続化給付金の給付基準の緩和をしてほしい。余裕のある自治体では給付はしているようだが（歯科）
- マスコミの誤った報道に対して怒りを感じる。行政が歯科の不要不急の治療は延期との通達をしたが、それだけでなく減収した分の保障をして欲しい（歯科）
- アルコール・マスク・ガーゼ等の不足もあるが、値段が数倍に跳ね上がっている現状を何とかしてほしい（歯科）
- 助成金、融資についてまとめて分かるものを作ってほしい（歯科）
- 今のところないが、スタッフ等が感染した際のダメージが心配ではある（歯科）
- 歯科に行くと感染すると思われている。これについてはよく理解させてほしい（歯科）
- 衛生士を増員した矢先の出来事で、経営的に厳しい状況だった。6月になり、ある程度持ち直したが第2波、第3波の際の危機感がある。給付金等の拡大も考えていただきたい（歯科）

調査についてのお問合せ先

〒320-0017 宇都宮市戸祭台 29-17 栃木県保険医協会（担当・榎力）
 TEL028-622-0083 FAX028-627-0648 mail to: tochhokk@maple.ocn.ne.jp

